

グループ紹介

科学技術鑑定センターの紹介

The Invitation to the Appraisal Center of Technology (ACT)

武藤 文男
Mutoh Fumio

1 科学技術鑑定センターとは

本会は、1997年12月の月刊『技術士』に林洋技術士（機械部門：交通事故鑑定では、わが国で著名）が“工学鑑定研究会”設立を呼びかけたのがきっかけで発足した。そして、1998年1月～5月にかけて3回の設立準備会を経て同年5月11日に、(社)日本技術士会36番目のプロジェクトチームとして誕生した。

当初は、法曹界、保険業界、その他の工学鑑定クライアントから本会会員に対する工学鑑定の依頼に対応するために、工学鑑定の技術を研究・研修するための勉強会からスタートした。その後鑑定依頼に広く対応するため、“科学技術鑑定センター”と会の名称を改め、規約および鑑定等手続規則を整備して2001年に再出発した。

2 組織構成

本会は、現在武藤文男会長、斎藤貞之、鬼木裕之進両副会長の下に39名の会員を擁し、総務、コーディネータ、広報、顧客開拓、会計の各担当幹事を2名ずつ配置し、幹事会を構成して運営している。

創立者の林洋氏には、名誉会長として現在もご指導をいただいている。

コーディネータ幹事は他にあまり例がないので簡単に紹介すると、クライアントから本会に照会のあった鑑定業務を会員の専門性に照らして伝達するいわば司令塔的立場の幹事である。

本会会員の各部門別人員は、機械17名、電気電子13名、化学、金属、経営工学、情報工学の各2名と応用理学1名の構成となっている。

また、大阪、神戸、富山、福岡の地方技術士も入会しており、それぞれ地方での組織化を推進中

である。

本会への入会は、日本技術士会の会員または準会員が、本会会員の2名以上の推薦状を提出し、月例会での承認を経て正式入会となる。

入会時、鑑定業務の受託を希望する会員は、鑑定人としての専門性を記入したデータを本会に提出し、コーディネータが顧客に対し、最適な鑑定人を紹介できるようにしている。

3 主な活動内容

(1) 総会

総会は毎年6月に開催し、他の会と同様前年度の経過と決算報告、新年度の事業計画及び予算、役員を決定する。

(2) 幹事会

本会の日常活動で重要事項はほとんど幹事会で検討し、月例会で承認を得、即実行している。幹事会は月例会の1時間前から実施しており、短期の問題は対応が極めて早いという効果がある。

本年度取り組んでいる課題は次の3つである。

- ① 鑑定の質的向上を目指した会員（登録鑑定人）の増強
- ② 会員への鑑定事例情報提供
- ③ 会独自の技術評価システム構築

(3) 月例会

毎月第3火曜日 18:00～20:00に開催している。最初の30分は会員による研究発表会で、会員が経験した鑑定事例、技術評価を発表し、質疑を交わすといったいわば勉強会を開催している。時には議論が白熱し、1時間を超えることもある。この事前案内は月刊『技術士』の会合・行事予定に掲載しているので、本誌を見て参加する技術士もいる。そして、会合に参加したときに本会の活動に興味を感じ、入会するといったケー

スも比較的多い。研究発表会の後、1時間を月例会として会の活動に関する情報交換にあてている。

業務紹介も行うが、1カ月間の業務に関する連絡はコーディネータからメーリングリストで既に連絡されており、顧客の事情もあるので数日で受託担当が決定され、月例会ではその経過報告になるケースが殆どである。また、各担当幹事から連絡事項が伝達され、概ね2時間の月例会が終了する。

(4) 業務別個別チーム

当会では経験専門別の技術士による数名の個別チームを編成して、顧客に質の高い鑑定を提供し、満足度を高めようと図っている。現在次のチームを編成して成果を挙げている。

- ① 自動車チーム（リーダー：大野耕一）
（交通事故、構造欠陥その他自動車関連の鑑定）
- ② 雷チーム（リーダー：後藤昭夫）
（落雷による被害の鑑定）
- ③ 技術評価チーム（リーダー：斎藤貞之）
（R&D評価、事業投資、特許価値等の技術評価）

今後更に新しい専門技術別個別チームを発足させる予定である。

(5) 担当幹事の役割と活動状況

- ① 総務（幹事：大島正、佐方信之）
会合の準備・案内、規約の制定・改廃事務、会員拡充、会員の把握（会員名簿）を担当する。

これまでの会員増強の実績が高く評価されている。

- ② コーディネータ（幹事：坂井秀也、中村敏彦）
対外折衝、業務斡旋、斡旋業務の把握、幹事会への経過報告を担当する。

これまでに事故鑑定、係争・トラブルの鑑定、技術評価などの業務を年間数十件受託し、鑑定人登録した会員にコーディネートして多くの実績を挙げてきた。最近、更に増加の傾向が予測される。

- ③ 広報（幹事：則包直樹、榎本博康、森山哲）

カタログ、パンフレットの発行、ホームページの管理、会員への情報提供、ネチケット管理を担当する。

現在カタログ、ホームページを一新し、認知度が大幅に向上して引き合いが増加している。

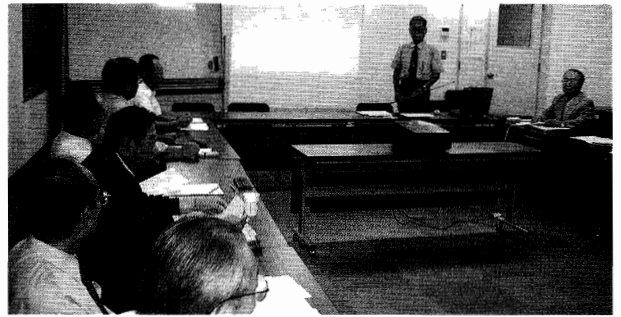


写真1 科学技術鑑定センターの研究発表会

- ④ 顧客開拓（幹事：斎藤貞之、馬縹宏）

既存個別チーム、新規チームの開設支援を担当する。

- ⑤ 会計（幹事：西譲二、江本永二）

4 おわりに

交通事故、火災、機械類の性能不良など、技術的トラブルが発生したとき、それを立証し、社会的に認知させることは難しく、特に技術的な事象の解明には高度の技術分野にまたがるような、総合的な鑑定を必要とする場合も多くなってきた。

私たち科学技術鑑定センターは、「技術士法」に基づいて行われる国家試験に合格し、文部科学省に登録した技術士資格を有するプロフェッショナルな集団によって構成されている。しかし専門技術の権威ばかりでなく、「技術士倫理規定」により「中立公正の堅持」「秘密の保持」を遵守すべき責務を課せられている。

1998年7月設立以来、広く科学技術に関する事故鑑定、技術評価を数多く受託し、多くの信頼をいただいていた。

今後一層の研鑽を積み、保険業、銀行・金融業、一般企業、個人等、また裁判所、弁護士、経営者、投資家等の幅広いニーズにお応えできるよう、一層の努力をして参りたいと願うものである。

URL <http://www.kantei-center.com>

武藤 文男（むとう ふみお）
技術士（機械部門）

武藤技術士事務所
e-mail f-mutoh@df6.so-net.ne.jp

